



コラム執筆者

篠山市原子力災害対策検討委員
守田敏也さん

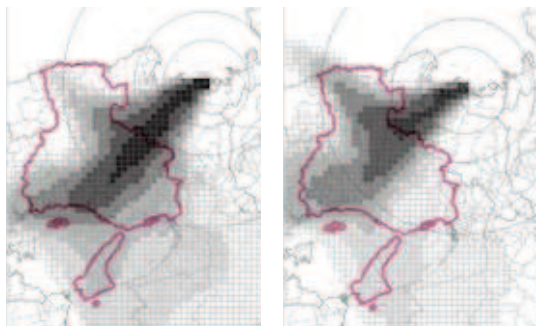
第1回 「影響を知る」

福井県の原子力発電所で、もし事故が起きた場合、篠山市にもその影響が及ぶおそれがあります。ここでは守田敏也さんによるコラムや、市の取り組みについて、その影響や放射能のこと、災害にどう備えるかをテーマに3回に分けて紹介します。

※原子力発電所の是非を問うものではありません。

問い合わせ 市民安全課 ☎552 - 1116

放射性物質拡散シミュレーション (平成26年4月・兵庫県)



篠山市役所から福井県の原発群までの距離は、高浜原発で約56km、大飯原発は約65kmです。福島原発事故の時には、原発から約62km離れた福島市にもたくさんの放射能が降りました。

平成26年4月、福井県の原発群で深刻な事故が起きた場合の放射能の拡散シミュレーションを兵庫県が公表しました。その内容は、県内の多くの市町にかなりの量の放射能が飛んで来るといふものです。もし、高浜原発で事故があった場合、篠山市で備蓄している「安定ヨウ素剤(※注)」服用の目安の2倍の放射性物質が篠山市に飛んでくることになります。委員会としては全市民の避難が必要な量であると考えます。

しかし、これはあくまでも一つのシミュレーション結果。原発事故は始まるとどこまで

拡大するか分かりません。福島でも拡大が続いた場合、政府試算では半径170kmが強制避難、250kmが希望者を含む避難ゾーンになるところでした。

平成26年5月に福井地方裁判所から大飯原発再稼働差し止め判決が出ましたが、この判決も政府の試算を根拠に、この地域に住む人々の「人格権」を守るために運転をしなければならないと命令したものでした。

もっと恐ろしい被害を予想した人もいました。当時の福島第一原発の吉田所長でした。政府の聞き取り調査に吉田所長は「このままでは東日本が壊滅すると思った」と答えています。

事故の可能性や被害規模は原発が動いているときの方が格段に高くなりますが、原発には停止していても使用済み燃料プールに核燃料があり、プールが壊れると深刻な事態になります。私たちはそのために原発事故への備えをしておく必要があるのです。

(※注)放射性物質の1つの放射性ヨウ素は体内に入ると、のどの甲状腺に集まり、放射線を出してがんなどの病を引き起こします。そのため国際原子力機関(IAEA)は、放射性物質がある一定量飛んでくる時は、事前に安定ヨウ素剤を飲み、甲状腺を安定ヨウ素で埋めて被ばくを避けることを指示しています。安定ヨウ素剤については、次号で詳しく紹介します。

ポイント

- 福井県の原発で事故があった場合、篠山市にも放射能汚染の影響がある
- 原発が停止していても、保管されている核燃料が漏れ出すと深刻な事態となる
- 影響を知り、「備え」をしておく必要がある

篠山市の取り組み (原子力災害対策検討委員会)



市民の安全を確保するために必要な対策を検討するため、学識経験者、自治会、民生委員児童委員、消防団、医師会、薬剤師会、公募委員などで平成24年10月に組織。委員会ではこの2年間、福井県若狭湾の原発群が事故を起こした場合、篠山市にどんな影響があるのか、市民はどうすれば良いのかを検討しています。また、住民学習用の教材を製作し、各自治会で学習会を開催しています。会社やPTAなどでも研修にご活用ください。

2 ▶ 9

特集

10 ▶ 11

街かど
レポート

12 ▶ 15

タウン
ピックアップ

16 ▶ 21

市政
リーダー

22 ▶ 23

ささやま
ホット
ステーション

24 ▶ 25

はぐくみ

26 ▶ 29

施設
情報
相談

30 ▶ 35

イン
フォーメーション